

松阪市子ども支援研究センターだより

松阪市子ども支援研究センター〈TEL. 26-1900 FAX. 26-1901〉
E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>
松阪教育支援センター「鈴の森教室」「三雲やまゆり教室」
〈TEL 26-1900 FAX 26-1901〉 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休校がはじまり、約3週間がたちました。各園校におかれましては、様々な子どもたちや保護者の思いを大切にしつつ学習指導、部活動、卒業（園）式、家庭訪問など工夫をこらして取り組んでいただいております。

さて、長期研修員が1年間かけて取り組んだ研究を研究集録にまとめました。本研究を進めるにあたり、ご指導ご協力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。いずれの研究テーマも、新学習指導要領で重要視されているところです。この研究成果が、各校・園にて広く活用されることを願っています。

研究集録 第137集

外国語教育における小中連携 —小中をつなぐ言語活動の実現を目指して—

新学習指導要領では、中学校への接続を図ることや、言語活動を通して目指す資質・能力を身に付けることが重視されています。本研究では小学校外国語教育において「スモール・トーク」「スピーチ」という二つの言語活動に着目し、その効果と有効な言語活動とするための手立てについて実践・検証しました。

実践を終えて、これらの言語活動により、話の内容を理解する力、話す力、「話そう」という意欲がつくことがわかりました。また、目的・場面・状況の設定、繰り返し指導できる単元構成や活動の展開、適切な視覚支援などの手立てが有効であることもわかりました。これらを踏まえ、言語活動を通じた指導を小中でおこなっていくことが効果的であると考えます。

本集録が今後の外国語教育の授業実践の一助となれば幸いです。

(長期研修員 西尾 友加)

研究集録 第138集

I C T機器を使った児童生徒の学習効果について —学びが深められる学習活動を通して—

情報化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきています。児童生徒には、新しい時代を生きていくための資質・能力を育む必要があると言われていています。

そこで本研究では、既存の教育環境とI C T環境を活かして、児童生徒がより「わかった」「できた」と実感できる授業とするためには、どのような学習活動にI C T機器を活用することが効果的であるかについて実践検証をおこないました。

検証した[比較]という学習活動では、生徒たちの考えを、全て大型掲示板に映し出すことで、考えを共有させることができました。また、大型掲示装置の画像を生徒たちに返すことで、疑問の発見をさせることができました。この学習活動は、どの教科でも学習効果が期待できると考えます。他にも、「整理」「発信」についての実践を研究集録に載せてあります。今後、充実されるI C T機器を活用した授業実践の参考になれば幸いです。

(長期研修員 三村卓也)